

# 「町制施行45周年記念の節目の年 創意工夫で飛躍の年に」



鏡石町長  
木賊政雄

新年明けましておめでとうございます。平成19年の輝かしい新年をご家族お揃いでお迎えのことと心からお祝いを申し上げます。地方分権社会が進み、全国の市町村が再編され、それぞれが地域の個性を活かしたまちづくりを進めておりますが、本町におきましては、鏡石町の「地域特性と優位性」を背景に、町民の皆様の「知恵と行動」を結集し、「共生と協働」をテーマにコンパクトなまちづくりを推進して参りました。

特に、昨年は、中学生の全国大会におけるめざましい活躍をはじめ、長年企業誘致活動を進めました東部工業団地と南部第一工業団地の2カ所が完売となりました。また、懸案事業でありました第一小学校体育館改築事業が順調に進み、今年2月に竣工の予定であり、さらに、東北自動車道「鏡石パーキングエリア」にスマートインターチェンジを設置する事業の具体化など、将来の鏡石町を支える基礎・基盤づくりが着実に進んでいることが実感できた一年ではなかったかと思えます。

さて、町では現在、町づくりの基本指針となる「第4次総合計画」の改定作業を進めておりますが、本格的な少子高齢化社会を迎え、人口減少の時代に入った中で、一昨年の国勢調査で、僅かではありますが増加を示したことは、明るい材料となりましたので、今後は、これまでの慣行にとらわれず、大胆な発想と創意工夫により、「共に生き 共につくる 牧場の朝のまち 鏡石」の実現に向けて、「快適空間づくり」「元気づくり」「活力づくり」「人づくり」「地域づくり」の5つの柱を基軸にまちづくりに取り組んで参る所存であります。

特に、平成19年は、昭和37年8月に町制を施行して45年目となる節目の年でもあり、各種の記念事業の実施をはじめ、「地方道路整備臨時交付金事業」、「成田地区県営ほ場整備事業」、「公共下水道事業」などの継続事業を着実に進めて参りたいと考えております。

企業収益が改善され回復傾向の続く経済情勢の中、前年度に策定された第2次行政改革大綱集中改革プランに基づき、これまで以上に行財政改革を推進し、コンパクトなまちづくりを实践、町民一人ひとりが「ほんとうの幸せ」を実感できる1年として参る所存でありますので、引き続き温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。終わりに、皆様のご一年のご健康とご多幸をお祈り申し上げ新年のあいさつといたします。

## 「心とむまちづくり」



鏡石町議会議長  
菊地栄助

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

輝かしい2007年の新春を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

また、常日頃、議会活動に対しまして、多大なご支援、ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

長い不況が続いておりますが、ことは、ぜひ明るい年でありますように、また、一層、幸多い年でありますように願いたいものであります。

まもなく、国民の4人に1人が、65歳以上となる、高齢社会を迎えることとなります。

歴史にも類をみないスピードで、高齢化が進んでいくという状況のなかで、人生80年を前提とした社会へと設計を変更しているのが現状であります。

急激な経済社会の国際化、情報化、と言った国際環境の変化に対応するためにも、好むと好まざるとにかかわらず、わが国自身が政治・経済をはじめあらゆる面で、大きな変化を遂げなければならない時代であります。

そうしたなかで、この町と一緒に生活している皆さんが、この町に住んで良かったと実感し、よその人達には、あの町にぜひ住んでみたいと、思わせるような地域づくりにどう取り組んでいくのかということが、私たちに課せられた課題であると考えております。

4月には、全国統一地方選挙がありますが、どうかことしも、一層のご指導とご協力をお願い申し上げますとともに、ことが皆さんにとりまして、幸せ多い年ありますよう、お祈り申し上げ新年のあいさつといたします。